

総務委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

■ 総務委員会

委員長：畑中 ゆう子

副委員長：中村 千佐江、

委員：徳留 八郎、神脇 清照、羽田野 徳寿、綿屋 善明

2 視察先・テーマ及び日時

■ 志布志市

時間：13:30～15:00

場所：志布志市役所5階 議会棟第2委員会室

テーマ：「チョイソコしぶし」をはじめとした地域公共交通の取組について

3 視察の内容

■ 「チョイソコしぶし」をはじめとした地域公共交通の取組について

- ・チョイソコしぶしの経緯
- ・チョイソコしぶし運行事業・運行計画
- ・令和4年度予算
- ・実績
- ・質問事項への回答

4 委員感想等（別紙添付）

5 添付資料

■ 視察の状況（写真）



令和5年1月27日志布志市への 総務委員会行政視察報告書

委員名 畑中ゆう子

1 視察の感想

今回の志布志市への視察で、「チョイソコしぶし」をはじめとした地域公共交通の取り組みを研修させて頂きました。事前に総務委員会で、聞きたいことを7点、整理して臨んだことで、よりわかりやすい研修になったと思います。

以下のような回答を頂き、理解が深まりました。

- 1, 交通弱者へのアンケートを実施して、利用実態の把握をされていること。
「何で利用できていないのか。バスの停留所まで、家族に送ってもらう必要がある。」など
- 2, 電話予約をコールセンターが行っており、予約したことを忘れないようにコールセンターからの電話も行っていること。
利用者数が限られているので、最初に予約した人が利用できる。予約しようとしても、利用できない時がある。
- 3, 適用エリアの選定は、路線バスや福祉タクシーの運行していない交通空白地の解消が喫緊の課題であったため、街なかで実証運行を行い、段階的に市内全域に拡大したこと。
- 4, 料金設定など契約に際しては、住宅地間の停留所の移動の禁止など、タクシー事業者との関係がありシステム運営側と協議し、ルールを決めていること。
- 5, 他の公共交通機関への影響については、路線バスのバス停につなぐ役割があり、路線バスの利用者の利便性の向上につながっている。通院など帰りがいつになるかわからないときは、帰りはタクシーを利用するなど、他の公共交通機関の利用促進につながっていること。
- 6, スポンサー企業については、事業所を停留所とすることができるので、市内事業者が多いこと。スポンサー契約は、1月～12月までの1年更新。
- 7, 乗り場が710か所。歩いてゴミを出す範囲でゴミステーションが469か所乗り場となっている。公共施設等停留所が240か所。事業所施設等停留所が31か所（スポンサー企業数26社）ある。自治会と話し合いのもと変更できる。公民館など待合スペースがある所もある。

2 視察の成果及び市政への反映等

チョイソコしぶし、の利用を実体験することは、できませんでしたが、動画での利用状況を映像で拝見しました。運転手さんは、カーナビで道案内するので、それに沿って安全運転に心がけることができるようになっていました。車が空の状態で走らないことは、最大の魅力だと思います。

令和 2 年 7 月 1 日から、チョイソコしぶし実証運行が開始され、全国で 4 番目、九州では初の取り組みとのことでした。令和 4 年 10 月 1 日から本格運行開始となっています。運行日は平日のみ、午前 9 時から午後 4 時までとなっており、タクシー事業者など、民業を圧迫しないための協議と工夫が、運行開始までのとても重要な問題として位置付けてあり、お互いが利便性の向上のために協議を重ねていくことが大切なのだと感じました。

利用者は、一般会員（小学生以上 6 4 歳以下）と高齢者等会員に分かれており、それぞれ利用ルールが規定されていることも納得できました。

地域住民のニーズを細かくつかむことが、大切だと思いますが、公共施設の利用など便利となり、高齢者の生きがいつくり、元気づくりに欠かせない取り組みであり、本市でも事業実施のための準備を急ぐべきであると考えます。

総務委員会行政視察報告書

委員名 中村 千佐江

1 視察の感想

スポンサーの仕組みがよく分からなかったが、話を聞いたら、わりと単純明快で、地域の方々も賛同しやすいのではないかと思った。また、スポンサー契約は、増加の一途であり、解約のリスクが小さいということで、安定収入を見込める良い仕組みだと思った。公共交通として、公金を投入するのが当然という考えだけでなく、地域で回していこうという発想が、持続的で安心できる。

今後、夕方の子どもの習い事の送迎や、不登校児童生徒の適応指導教室への送迎などにも利用の幅が広がると、もっと市民に広がるだろうと思った。

2 視察の成果及び市政への反映等

コミュニティバスの乗り場までが遠いという声が聞かれるので、このような、小回りの利く交通手段の導入は、市内全域において需要が見込まれると考える。

すでにコミュニティバス等地域独自の公共交通が導入されている地域では、二重の導入になる点で、実際には難しいと思うが、チョイソコのようなシステムへの移行を含めて、検討する余地が大いにある。

導入されていない地域では特に、実証実験があっても良いと思う。

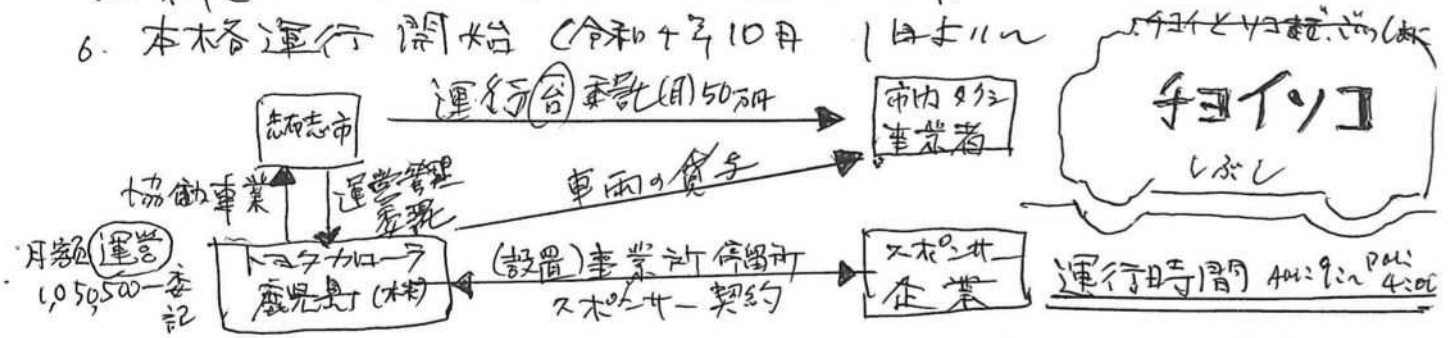
会派での研究を進めているところであったので、志布志市での事例を会派で共有したい。

鹿児島県 志布志市 公共交通(4ヨイッコしぶし)の調査

令和5年1月17日 都城市議会(総務委員会) 徳留 八郎 { 令和5年 1/31 書 }

① 経緯について (健康増進の道の乗り合い送迎サービス)

1. 包括連携協定締結 (令和2年11月31日)
志布志とトヨタカラー鹿児島(株)の連携と協働力による活動と推進し、愛知県豊明市の実証実験を行っている所の「4ヨイッコ」を参考に、高齢者向けのオンデマンド交通サービスの具体的実践として、市が行う4ヨイッコしぶし積 的の活動
2. 志布志地域交通活性化会議 (令和2年5月18日)
3. 志布志地域公共交通実証運行事業に関する覚書締結 (令和2年6月15日)
4. 4ヨイッコしぶし実行運行開始 (令和2年7月1日)
全国初の事例目。(九州管内初)
5. 4ヨイッコしぶし第3期実証運行 令和4年1/1 ~ 令和4年9/30まで
1回料金200円 スモーカー料金 有料
6. 本格運行開始 (令和4年10月 1日) 1日5回



(全員数) → 一般 152名 (停留所) 住宅地停留所 - 40ヶ所
 高齢者等全員 → 917名 公共施設等... - 240ヶ所
 事業施設等 - 31ヶ所

26社 4ヨイッコしぶしに協力をしている企業数

令和4年度決算見込外額 < 委託料 - 月500円 × 2台 × 12ヶ月 = 12,000円
 12,000円(委託料) - 1,344円(運賃) = 10,656円 → (実質負担額)

感想 市民向け(車)大平会社と提携して、そのほかの各地域(停留所共)に配慮した運送方法を採用している。民間協力も多く取り入れている。これにより経営も目的達成が好まれるであろうと思われ、(持続性の確保) 無事移動(運行)が少い方には良い方式と思っております。
 決められた(定められた)停留所間を移動する予約型乗合送迎サービス

総務委員会行政視察報告書

委員 神脇清照

地域公共交通の現状と課題について

(赤布志市)

1. 視察の感想

赤布志市においては高齢化率が30%を超え、高齢者の交通手段の確保が課題となっており、平成31年3月に「赤布志市地域公共交通網形成計画」を策定している。

計画推進事業を実施していく中で、トヨタカーラ鹿児島(株)から「テイクソコ」について事業提案を受け、令和2年7月より、協働事業として、又、地元タクシー事業者と共に事業実施している。

当初6ヶ月は運賃無料で実証運行し、令和3年1月から令和4年9月まで運賃200円の有料で、運行エリアも市内一部地域から市内全域とサービスエリアを広げ、その後令和4年10月から本格運行が開始されている。

運行日が土曜日、日曜日、祝日は除かれており、又時間も9時から16時と制限があり、利用者からはより幅広くサービスを求められるようだが、他の一般乗用旅客自動車運送事業者との兼ね合いもあるように思う。

利用対象者は小学生から高齢者まで活用でき、停留所についても高齢者に対しては病院やファミリマート等幅広く利用できる所と設け、思いやりのある取り組みになっている。

高齢者にとっては外出機会も増え、生き甲斐にもなり、健康増進にも繋がっているように思う。

2. 視察の成果及び市政への反映等

鹿児島交通(株)が運行する路線バス内の停留所については、「テイクソコレぶら」が路線バスへつなぐ役割があるため、路線バスが利用でき、利便性の向上につながっており、本市におい

2.

とも宮崎交通務との連携推進という点で参考にしたい取り組みである。

利用方法において、コルセンターへの予約で乗降できる点ではシステムも確立しており、利用者にとって利用回数が増えるにつれ、便利さを感じておられるように思う。

運行委託料はタクシー事業者と持ちつ持たれつの関係で保たれており、元布衣の実質負担率も交通弱者支援を考慮すれば効果のある事業であるように考へる。

会員登録者は右肩上がりで増加傾向にあるが利用予約件数が横ばい状態で、利用者を増やすには、利用者の要望等も参考にしながら、より利用しやすいシステムで改善を図りながら事業継続の意欲が感じられる。

都城市においても交通弱者に対しての利便性を提供するために「テヨイソコレぶし」の事業を参考に組みたい交通サービスである。

総務委員会行政視察報告書

委員名 羽田野 徳寿

1 視察の感想

今回は、「地域公共交通の現状と課題について」志布志市を視察させて頂いた。

～今回視察させて頂いた、「チョイソコしぶし」については、市の喫緊の課題であった交通空白地の解消を目的に、既存の路線バスや福祉タクシーなど他の公共交通サービス事業に極力影響を与えないよう慎重に協議を重ねながらも、それらの交通機関の利用促進にもつながるようにきめ細やかな公共交通サービスに努められていると感じました。

また、今後、コロナ禍から脱出して経済活動が回復に向かう際は、人の行動が広がり、「チョイソコしぶし」登録者数の増加や予約件数についても向上していくことが予想されます。

2 視察の成果及び市政への反映等

～本市においても、同じように現在の公共交通サービスにおいて、空白地帯となっている区域を把握し、既存の公共交通サービスの利用促進につながる新たな公共交通サービスが必要と考えます。

特に高齢者等で自動車免許を返納される方々にとっては、自動車の代替えとなるようなものが求められることになり、今後も検討して参ります。

総務委員会行政視察報告書

委員名 綿屋 善明

1 視察の感想

- ・松山、有明、志布志地域、それぞれの地域から志布志市役所本庁舎のある市中心部まで直通という点について優れている、と感じました。本市にあっては、各支所・本庁管内でそれぞれに公共交通を整備していることから、地域間の移動となると、宮崎交通かタクシーの利用が欠かせません。この点は、本市としても参考になる点と考えます。一方で、停留所がゴミステーションや各公共施設、事業所停留場に限られている点は、やや残念に感じました。山間の街や集落に住まわれるご高齢の方にとって、買い物袋を提げて帰宅するときのつらさは、大変なものがあると感じます。停留所以外でも手を挙げれば乗降できることや自宅まで送迎してくれる点は、本市のカタチの方が、より利用者にとって便利である、と感じました。
- ・経営面について、スポンサー料が市の支出を抑える点で有効な手段であると思いました。100%行政の負担にするのではなく、地域にある企業が「地域貢献、という立場から、チョイソコの取り組みに参加することは、各企業の社会的責任を果たすことを後押しするという点からも意義があるものと感じました。
- ・志布志市と本市とでは、市の面積が倍以上の開きがある。市役所本庁舎のある市中心部まで、おおむね25分ほどである一方、本市では30分～37分かかる遠隔地もある。直通であればよいですが、各停留所へ停止しながら移動するとなると、利用者の時間的負担や精神的ストレスがつのるようにも感じました。

2 視察の成果及び市政への反映等

- ・志布志市と本市を比較しますと、面積の上からもまた人口の上からも大きく異なっております。そのため、そのままチョイソコを本市で導入すると、利用者へ時間的・精神的負担を強いおそれがあると考えます。そこで、以下3点について本市の現状を鑑みた地域公共交通のあり方を模索する必要があると考えます。

- 1、旧北諸県郡、旧都城市内で現在運用されている地域公共交通はそのまま利用する。
- 2、地域を横断的つなぐ路線を充実させ、ご高齢の方の外出意欲を喚起する。
- 3、旧郡部から市中心部へは、JR線や宮崎交通バスの利用を促進するよう取り組む。
- 4、地域の企業がスポンサーとして、地域公共交通の支援に取り組めるよう機運を高める。
- 5、JR線やバスや地域公共交通の魅力を伝える場を、世代ごとにもうける。

以上